



**シラバス参照**

タイトル「2016年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2016年度 教養科目シラバスー「教養の森」科目群【科目群4】」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	日本古典文学		
担当教員	<a href="#">大橋 直義</a>		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年 【日本古典文学入門】取得者は受講不可		
科目名（英語表記）	Japanese Literature		
授業の概要・ねらい	<p>みなさんの多くがおそらく共通して抱いているであろう、「現代社会において古典文学を学ぶ意味はどこにあるのか」との問いの根底には、「古典文学は役に立たない」という観念が横たわっています。このような問いを突きつけられたとき、たとえば「自国の文化・文芸についての教養を身に付けていることが国際社会では常識だから」といった回答で人はその身をかわしますが、結局のところ、「役に立たないかもしれないけれど」と留保しつつ、「読んでおいたほうがよい」という自己目的的な知識増大の礼賛——教養主義に陥っているにすぎず、その意味でこれまでの古典文学研究あるいは教育は、この種の問題から目をそらしつづけてきたと言わざるをえません。たしかに古典文学は、現代の社会システム——たとえば企業経済活動に代表される効率化を是とする社会においては、ほとんど「役に立たない」のです。この授業が問題の出発点としたいのは、なぜ我々は古典文学が「役に立たない」と感じてしまうのか、ということです。そのような判断を下しているのは、1945年8月15日正午以後（あるいは明治維新以後）、日本社会の様々な局面に累々と積み上げられてきた価値規範に他なりません。つまり、古典文学が描く世界は、この価値規範によって排除され、どこか遠い世界の物語として断絶させられてしまっているのです。現代の日本がこれまでの価値規範の見直し・再構築を迫られている現状にあることは我々が肌で感じている通りですが、このような状況は、現代に限ったことではありませんでした。戦乱・地震・大火・台風などの未曾有の災厄を経た、たとえば鎌倉時代最初期も同様であったとすることができます。そのような時代、新たな価値規範を再構築するにあたって、常に「古典」が共同体の物語として再認識されてきたのです。このことは、この時期、藤原俊成によってなされた「源氏見る歌詠みは遺恨のことなり」との警鐘にも読み取ることができますし、西洋世界における古典（人文）復興——ルネサンスとも通底するでしょう。この授業が目指すのは、今後、価値規範が再構築されるであろう現代日本において、顧みられることになる「古典文学」とそこに内在する共同体の物語、ことばの力のありかたを明らかにすることです。そのことを通じ、現代において「古典文学」を学び、研究する意味と、そのための方法を習得することをも目標とします。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	ガイダンス・文学研究の方法・現代に息づく「古典文学」	
	2	「古典」とは何か、「文学」とは何か	
	3	書物と図書館あれこれ：レポート執筆のための調査方法	
	4	「説話」と「物語」と「昔ばなし」と	
	5	お伽草子を読む意味（1）	
	6	お伽草子を読む意味（2）	
	7	本地物を読む（1）	
	8	本地物を読む（2）	
	9	紀州地域とお伽草子（1）	
	10	紀州地域とお伽草子（2）	
	11	紀州地域とお伽草子（3）	

	12	紀州地域とお伽草子（４）
	13	紀州地域とお伽草子（５）
	14	紀州地域とお伽草子（６）
	15	まとめ：現代に息づく「古典世界」
到達目標	この授業をきっかけに、履修者各自が現代に横溢する種々の言説・価値観に公平な立場で接するための素地を涵養すること。加えて、古典文学研究の現状を把握し、研究・教育のための基本的知識・方法を理解すること。	
成績評価の方法	学期末レポート（100％）。レポートは4000字内外（図版等別）。 なお、欠席が多い場合にはレポートを受理しない場合があります。	
教科書	配布資料のみ。	
参考書・参考文献	適宜、授業内で指示します。	
履修上の注意・メッセージ	将来、国語科教員を目指す人はもちろん、「古文」が苦手だった人や関心が持てなかった人も歓迎します。その他、履修上の注意点などは初回授業時に指示します。授業前後の自主学習は、授業内で配布する資料を熟読しておくこと、また授業内で得た知見を自身がめざす研究活動や日常に活かすよう、意識することです。	
履修する上で必要な事項		
受講を推奨する関連科目		
授業時間外学習についての指示	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。	
その他連絡事項		

